

ぐんま教師塾の1年を振り返って

班員
氏名

みどり市立大間々中学校
渋川市立赤城南中学校

乗原 淳一
登山 淳也

吉井町立中央中学校 松岡 賢一

1 班別研修に対する所感

主に班員の自己課題に基づいて意見交換を行った。指導主事には、その自己課題にかかわる内容について、多くの御指導を頂いた。それぞれの自己課題について話し合うことで、先生方の意見を参考に解決策を見いだすことができた。また、生徒にとって分かりやすい授業にするためには、学習内容だけでなく数学的な見方や考え方に視点を当てて授業を組み立てることが大切であると分かった。

2 多彩な講師陣による講義や講話に対する所感

現在の教育を取り巻く情勢や実態を知ること、改めて教育の大切さと教師という職業の責任の重さを認識した。変化の時代であることを前提として、本気で挑戦していく、魅力ある教師を目指そうという気持ちになり、研究を進める意欲につながった。また、アナウンサーや塾講師など、違う業種の方の講話は、新鮮で非常に興味深いものであった。第三者の立場から教師という職業を見つめ直すことができた。

3 授業参観協力校等での授業参観に対する所感

第1学年の比例の学習では、文字の式で表す前に具体的な数字を使って式で表して関係をよみとらせていた。第2学年の図形の学習では、結論が言えるためには何が必要なのかと考え、三角形の合同が言えればよいという証明の見通しを生徒にもたせていた。また、生徒が問題解決をしているときには、生徒一人一人の取組の状況を把握し、個に応じた適切な支援を行っていた。その結果、生徒は問題解決に意欲的に取り組んでいた。このことから、具体的なことから一般的なことに学習を進めること、問題解決の見通しをもたせること、生徒の実態に応じて適切に支援していくことの大切さを感じた。

4 授業実践とその参観に対する所感

単元における主な数学的な見方や考え方を、班別研修を通して具体的にとらえ、その数学的な見方や考え方に生徒がどのように気づき、活用し、そのよさを味わうのかについて検討をした。そのことを基に、授業において「どんな見方や考え方をすると解けそうか」と見通しをもって問題を解決したり、「どのように考えたことがよかったのか」を振り返り発表しあったりする場を設定した。その積み重ねにより、生徒は数学の授業に意欲的に取り組むようになり、問題を解く楽しさを感じるようになった。このことから、数学的な見方や考え方に視点を当てた授業をすることが、問題を解決する能力や学習意欲を高めることに有効であることが分かった。



義務教育研究グループ 算数・数学班
担当指導主事：角田 忠雄